


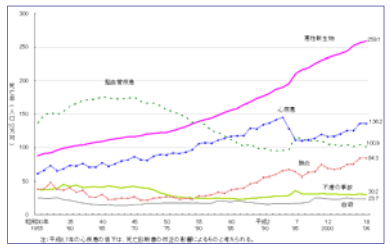
図書館とNPOの連携が拓げる 『がん患者さんの治療と生活をつなぐ』 情報発信の可能性



2011年10月14日
NPO法人キャンサーリボンズ
副理事長 岡山慶子

がんの現状

日本人の男性の2人に1人、女性の2.5人に1人が一生涯の内にがんになり、3人に1人はがんで死亡します。この数字は世界一であり、日本では今後も増加傾向です。



厚生労働省
人口動態統計(平成19年)

<日本人に多いがん>

1位	2位	3位	4位	5位
胃	大腸	肺	乳房	肝臓


<死亡が多いがん>

1位	2位	3位	4位	5位
肺	胃	大腸	肝臓	膵臓

NPO法人キャンサーリボンズの設立

■アメリカでの視察

2000年頃から乳がんの早期発見の啓発活動やがんの医療のあり方などを知るためアメリカの数か所の地域を訪ねるうちに、がん患者さんの生活を支える組織、プログラムがハード、ソフト両面で充実していることを知りました。



また、施設や設備の豪華さより患者さんのイキイキしている姿に目をみはりました。日本においても、がん患者さんのインタビューの中で、幸福感や前向きな考え方等、希望尺度の高い人が予後順調であることを知りました。患者さん、ご家族、医療者が今より少しでも幸福でいられるための情報を得られたり、体験できる場をつくることにしました。

■「治療と生活をつなぐ」をテーマに

海外の事例を参考にし、日本の現状を分析した結果、多くのがん患者さんは、治療だけでなく治療中及び治療後の生活に不安や悩みを抱えていること、症状や副作用など治療に関わるケアは勿論のこと精神面でのケア、暮らしのケアなど生活全般に関わるサポートが必要であることがわかりました。がん患者さんが少しでもこちよい自分らしい生活を送る為に「治療と生活をつなぐ」を活動の中心にすえ、2008年6月にNPOを設立しました。

キャンサーリボンズの特徴

1. 情報やケア体験が得られる【リボンズハウス】を日本各地に展開しています。
2. 「治療と生活」をつなぐ様々なテーマに取り組み、コンテンツを開発しています。
3. 「がん支えあいの日」やシンボルマークを作り、がん支えあいの啓発活動を行っています。
4. 様々な組織・団体と、それぞれの特性を活かしながら連携活動を行います。

リボンズハウスの展開

●リボンズハウスは現在全国14か所に展開しています。



Copyright © 2011 NPO法人キャンサーリボンズ

京都医療センター リボンズハウスがオープン


<京都医療センターリボンズハウスの特徴>

- リボンズハウスの専任スタッフが常駐
- 病院に関わる全ての人(院長、医師、看護師、事務方、医療者のご家族)がリボンズハウスの運営に関与

・独立行政法人国立病院機構 京都医療センター3階に、新たにリボンズハウスがオープンしました。10月5日(水)のオープン当日は、「ホスピス緩和ケア週間・リボンズハウス開設記念イベント」として、緩和ケアへの理解を深め、リボンズハウス開設の告知と活用促進のための盛大な記念イベントが行われました。

・リボンズハウス開設にあたっては、病院長 中村孝志先生からのご挨拶がありました。続いて、当NPO副理事長 岡山慶子からもご挨拶させていただきました。また、記念イベントでは、腫瘍内科 安井久晃先生によるご講演「自分らしくがんと生きる」や、アロマオイル体験、ウィッグ展示・体験、ネイル体験など充実した内容でした。

・プログラムの締めくくり「オータムコンサート」では、看護師や患者さんや看護学校学生からの出し物、院内保育園児の可愛らしい合唱など沢山の方が参加して、多いに盛り上がりました。最後は、「ひとりの手」の合唱で、会場の参加者が一体となりました。



キャンサーリボズ テーマ別プロジェクト

がん患者さんやご家族、周囲の方を支えるために「治療と生活」をつなぐ様々なテーマでプロジェクトを実施し、調査研究、出版、ツール作成、セミナー、相談会、啓発活動を行っています。

- R** Release(緩)...ストレスや苦痛(症状や副作用)を取り除く
(痛みのすくい上げP・スキンケアP・口腔ケアP)
 - I** Information(知)...**情報を活用する(図書館と連携した情報発信 P)**
 - B** Beauty美...ビューティケアで自分らしさをサポートする
(がん治療中の女性にウィッグを贈る「キレイの力」P)
 - B** Body(動)...身体をほぐす、動かす
 - O** Orientation(向)...気持ちを整え、方向性を定める
(心のケア・カウンセリング専門家教育)
 - N** Nutrition(食)...食を愉しみ栄養で身体を養う(乳がんとニュートリション研究会)
 - S** Sexuality(性)...性を大事にする
 - H** Home Town(域)...地域の健康や美に貢献する
 - O** Occupation(働)...働く、役割を担う(気持ちの整理とビジョンづくりのサポートP)
 - U** Unity(共)...気持ちを共有し支えあう(がん暮らしサポートWeb)
 - S** Self-realization(己)...自分を大切に、自己実現する
 - E** Enjoy(楽)...楽しむ、表現する
- 注:Pはプロジェクト

がん支えあいの日

- キャンサーリボズでは、6月21日を「がん支えあいの日」としています。
- 社会全体で、がん患者さんが自分らしい生活を送るための支援を実行に移す日です。がんに関わる情報を共有し、ひとりひとりが自分にできることを考え、行動に結びつけているよう、呼びかけています。
- 6月21日は北半球の夏至、南半球の冬至にあたります。(年によって日にちがずれることがあります)太陽が北回帰線の真上に達し、その日を境に太陽の動きが変わる節目の日です。世界共通、自然の営みの節目にあたる日に、「がんも人生における節目である」ことを重ね合わせ、一年で最も長い夜に、あるいは昼に「がんについて考え、語りあう時間」を持っていただければと考えています。
- がん支えあいを広げるために、がん支えあいシンボルソング「あなたが大切だから」(作詞・作曲:山田邦子)を作り、イベントなどで歌ったり、CDをお分けています。)



第2回がん支えあいの日



第3回がん支えあいの日

寄付やグッズによる患者さんへのサポート

応援グッズで寄付

・500円からできる寄付。がん支えあい応援グッズ(ピンバッジ、シンボルソング「あなたが大切だから」CD、岩倉光昭さんポストカード)を購入していただくかたちの寄付。

サポーターシップによる寄付

・キャンサーリボズと「P&Gハンテーン」の共同プロジェクト「キレイの力」で、がん治療中の女性に「ウィッグ」を贈るための継続的な支援活動。(一口5,000円)
・リボズハウス基金

お買い物で寄付

・キャンサーリボズの活動にご賛同くださるショップや団体の販売する商品を購入すると、売り上げの一部がキャンサーリボズに寄付される仕組み。

がん患者さんの生活を応援する「がん暮らしサポート」で商品企画に参画。
「災害対応訓練」DVD (神戸) (キャンサーリボズHPでリンク、上記バナーをクリック)

生活情報の提供
・メイクや皮膚症状ケアDVDを作成し、がん治療中の女性に見ていただけるよう医療機関や団体に配布。

※詳細は、**キャンサーリボズHP**(<http://www.ribbons.jp>)をご覧ください。

医療情報についての図書館利用意向

■図書館とNPOの連携

3年目となるがん支えあいの日のイベント(2011年6月18日ニッショーホール)に800名の参加者がありそのプログラムに新しい連携の紹介としてNPOと麻生図書館の連携について発表しました。(発表者:麻生図書館館長 池原真氏)終了後の参加者からのアンケートの結果を見ると、医療健康情報の図書館利用率が45.3%あり、さらに今後の利用意向が66.3%と高いこと、さらにフリーアンサーでも図書館への期待が多く聞かれました。これらの結果をふまえ、さらに本格的な連携に向けて検討をはじめました。

<医療に関する情報と図書館の利用>

医療に関する情報を調べるために、半数近くが図書館を利用。

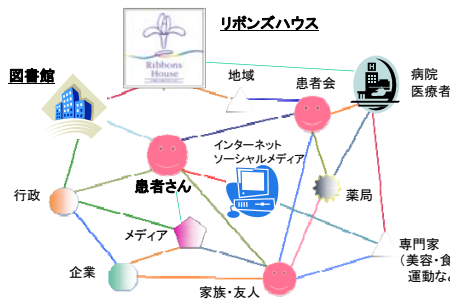
<今後の図書館利用意向>

医療情報発信場所としての図書館を利用したい意向は非常に高く、「ぜひ利用したい」34.1%、「まあ利用したい」32.2%と2/3が今後の利用意向。

※第3回がん支えあいの日会場アンケート(NPO法人キャンサーリボズ)

「がんと暮らす」ための医療と図書館の連携

- 図書館と、NPOや民間企業の連携の中で、「がんと暮らすための医療と図書館の連携」のあり方を検討。がんに対してやさしい地域づくりの実現を、連携で目指すことを確認しました。



「がんと暮らす」ための医療と図書館の連携

2011年7月には、図書館関係者とNPO法人キャンサーリボズメンバーによる「がんと暮らすための医療と図書館の連携」に向けての検討会を開催しました。

★図書館海援隊リボズ部の発足



「がんと暮らすための医療と図書館の連携」のあり方の検討
図書館とNPOや民間企業の連携の中で「何ができるか、何がしたいか」ブレーストミーティング

- 図書館での信頼できる医療健康情報コーナーの設置
- 図書館職員のがんについての勉強会の開催
- 図書館と医療者の合同勉強会の開催


などを計画し、がんに対してやさしい地域づくりの実現を連携で目指すことを確認しました。

図書館海援隊とは?


文科省の呼びかけで平成22年1月、有志の図書館が「図書館海援隊」を結成し、ハローワーク等関係部局と連携した貧困・困難者支援をはじめ具体的な地域の課題解決に資する取組をより本格的に開始。その後、この取組に対し、他の図書館からも参加希望が寄せられ、これに伴って、医療・健康、福祉、法務等に関する役立つ支援・情報の提供やリレーと連携した取組など、分野も拡大されました。参加館数は、平成23年1月1日現在で41館。

**図書館とNPOの連携が拓ける
がんと生活情報ネットワークの可能性**

■図書館内で「がんと暮らす情報コーナーづくり」実験



企業・がんサー
リボーズからの
情報提供



地域の最
有食の「シ
フレット」
情報提供
など

■図書館職員向け「がんの勉強会」

■図書館と医療者による「がんに関する選書トライアルワーキング」

■図書館職員向け「がんに関する選書ワークショップ」

**図書館とNPOで、どんなことを
一緒にできますか？**



もっともっと、みなさまのお知恵をお待ちしています！